

5 各分野を支える基礎条件

丹後には様々な資源があり、活動があるが、それらは都市部から離れ、地域内各地に広く分散している。また、各地に分布する居住地の人口規模は小さく、更に減少傾向にあり、高齢化が進んでいる。このような地域において、生活の基礎を維持し、その可能性を生かしていくためには、地域内外の交流を活発にする基盤の整備と、各地で人と人を結び活動主体となる組織の確立及びネットワーク化が基礎的条件となる。



▲京都縦貫自動車道宮津天橋立 | C

1 地域内外の交流を支え、活発にする基盤の整備

丹後と京阪神を結ぶ動脈となる京都縦貫自動車道、日本海側を兵庫県、鳥取県と結ぶ鳥取豊岡宮津自動車道の早期整備を推進するとともに、地域内道路の骨格を形成する国道176号、178号、312号、482号並びに主要地方道綾部大江宮津線、網野岩滝線、浜丹後線などの新設・改良を進める。またこれに関連して地域状況に応じて、生活道路を整備するとともに、冬期の安全で円滑な交通を確保していく。また、これらの道路整備に当たっては、自然に与える影響を十分検討していく。

同時に、天橋立の松並木や周囲の海浜の保全のように、海岸、港湾や森林、河川等生活や産業の場を構成し、観光の資源ともなる自然を維持し、その機能を保全・再生する総合的な活動を推進していく。

通学など地域に密着した交通手段である北近畿タンゴ鉄道は同時にJR線とともに京阪神方面から丹後へのアクセスルートを構成しており、環境負荷の小さい大量輸送手段としての特性を生かして、その役割を更に広げる取組を多面的に検討し推進する。一方、自家用車や鉄道によらない地域の交通手段として、路線バスは主要な役割を果たしているが、利用人口の減少と生活交通手段の確保に対して、公共バスの活用等地域の実情に応じた複合的な手だても必要であり、また他面では、観光周遊を広げる交通手段の検討も進めていく。

情報通信技術の飛躍的な進歩により、交流できる人々や知り得る知識の範囲は驚異的に拡大し、情報の活用によって、地域の可能性を一層広げ、新たな工夫を実現することもできる状況となっている。京都府では、府全域に及ぶ情報通信基盤として、2.4ギガビットのデジタル疎水ネットワークを既に整備しており、これをベースにして、各地でのブロードバンド環境を広げると同時に、利用目的や利用形態に応じた情報活用技術を高め、日常生活での利便性の向上や産業の発展につなげていく。



▲北近畿タンゴ鉄道

2 地域の活動組織の確立とネットワークの拡充

丹後の各地域には、昔からの人の集まりがある。それらは現在でも季節の行事を支え、草刈りや清掃を行い、防災や救助に当たり、生活の場としてのそれぞれの地域を維持してきた。しかし、長期にわたる人口の減少と高齢化のもとで、その機能の低下は避けられず、従来とは異なる組織のあり方が求められている。その一つの方向は、各地の給食サービスボランティア活動のように、目的を明確にした機能的に活動できる組織であり、高齢であっても役割を担い、その力を生かせる組織であろう。地域が必要とすることに対して、このような組織が構成され、またその活動を支援するより広域的な組織があり、そこには丹後内外の人々の協力も得られる仕組みがある、このような組織とそれらの連携を公共、民間、各地域が協力して丹後の中に広げていく。



地域社会を支える組織とともに丹後で求められるのは、産業関連であれ、福祉活動や文化・スポーツであれ、またIT活用であっても、広く各地に分散する個人やグループの力を生かす組織であり、NPO等にその能力を結集し、ネットワークを通じて更に機能を高めることが必要であり、この面でも公共、民間がそれぞれの関連の中で組織化等の支援をしていく。